

# 家庭科 家庭基礎 学習指導案

府立貝塚高等学校  
授業者 野田 豊美

1. 日時 令和元年 10 月～11 月
2. 場所 第 1 年 6 組教室、講義室 等
3. 学年・組 第 1 年 6 組 (40 名)
4. 単元 (題材) 名 第 8 章 経済生活を営む  
使用教科書：家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)

## 5. 単元 (題材) の目標

社会の変化に伴う消費構造の変化や消費行動の多様化などの現状や課題について認識させるとともに、さまざまな消費者問題について理解させる。特に、成年年齢引き下げにより、現在高校 1 年生は高校を卒業するとほぼ同時に「未成年者取消権」が行使できなくなるため、より消費者としての自覚と責任を持つ必要があることを理解させる。

また、消費者の権利や責任について理解させ、適切な意思決定に基づいて行動できるようにする。

## 6. 生徒観 省略

## 7. 教材観

この単元は、高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) 「家庭基礎」の内容 C 持続可能な消費生活・環境 (1) 生活における経済の計画ア・イ、(2) 消費行動と意思決定ア・イに対応している。

民法については、内容 A の中で「家族・家庭と法律」として扱うことが多いが、民法の改正により令和 4 年 4 月から「18 歳成人」となることから、生徒が「大人」としての自覚を持った消費行動ができるように、消費生活の単元と関連させることにした。

契約と契約トラブル、家計の収支と管理、クレジットカードの仕組み等について、具体的かつ体験的に学び、自立した消費者とはどのような消費者なのか、またよりよい社会の実現に向けた消費者の役割を考えさせることをねらいとしている。

生徒は、悪質商法等については中学校でも学んできている。しかし、生活経験の不足から自分自身の生活と結び付けて考えることができている現状がある。そのため具体的な事例を通して、自立した消費者になるために必要な知識やスキルの習得・活用を繰り返して問題解決的な学習を行い、原理・原則に基づいて問題の本質に気付き、批判的な思考を働かせて考えながら、意思決定力を身に付けることができる内容構成とした。

## 8. 指導観

第1～6時間目は、契約、家計管理など学習内容が変わりながら、生徒にとって身近な消費場面、消費行動を取り上げ、実践的・体験的かつ問題解決的な学習を通して、自立した消費者になるために必要な知識やスキルを習得・活用する。

『おとなドリル（教育図書株式会社）』や成年年齢引き下げに伴う消費者被害防止リーフレット（大阪府消費生活センター）等、既存の教材を効果的に活用しながら、生徒がより具体的に考えることができるようにする。また、給与明細を教材に、可処分所得や非消費支出など家計の構造やバランスについて、社会人になったときのことを想定してシミュレーションをしたり、若者に起こりやすい消費者トラブルについて具体的に取り上げ、問題の背景や構造、問題点について取り扱ったりしながら、自立した消費者に必要な知識やスキルは何かを常に問い、これからの自分の生活や将来につなげて行動できるようにする。

第7～9時間目は、第1～6時間目に取り上げた内容を活用・応用し、自らの実践や行動に結び付けていく。

事例研究（ケーススタディ）として取り上げる内容は、各地の消費生活センターに寄せられている実際の事例を参考にして、悪質商法だけでなく、それまでの授業で取りあげた若者に多い契約トラブルやクレジットカードの内容も含めて設定する。また、令和4（2022）年の5月時点と設定し、18歳成人を想定して「成年」と「未成年」の違いが理解できているかを問う内容にする。

グループで課題解決する際には、全員が参加できるように、まず個人で考え自分の考えを持ち、その後グループで意見を出し合うようにする。その際、意見が出しやすいように、「まなボード」等の学習ツールを活用して、グループの意見や考えをまとめやすくする。グループ活動をすることにより、自分では気付かなかった問題や課題を発見し、多様な解決策・対応策を創出し、よりよい生活の実現に向けて実践できる力を育んでいく。

今年度、毎時間の授業終了時に、本時の授業で学んだことを踏まえて「今日のテーマ」を示して、自分の考えをまとめ、表現させている。18歳成年を目前にして、生徒は消費者としての自分をどのように理解し、消費者の権利や責任について自らの暮らしと関連させて考えられるようになっているのか。本単元の学習を通じた生徒の変容を見取っていききたい。

## 9. 単元（題材）の評価規準

A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 技能	D 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"><li>消費行動における意思決定の過程について、具体的に考えようとしている。</li><li>消費者の権利と責任や消費者問題に関心をもち、自立した消費者として自らの生活を工夫・改善し、実践しようとしている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>契約するときの注意点を考え、発表することができる。</li><li>キャッシュレス社会の課題について考え、具体的な対応について考えた過程を適切に表現している。</li><li>消費者問題の被害の防止や救済について、具体的な事例を通して考え、まとめ、</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>自立した消費者としての家計の管理や生涯を見通した経済計画に関する技術を身に付けている。</li><li>生涯を見通した経済計画を立てることができる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>契約や販売方法の特性について理解している。</li><li>消費行動における意思決定の重要性や消費者の権利と責任について理解している。</li><li>家計の構造や家計管理の基本について理解している。</li><li>キャッシュレス社会の利便性と問題点を</li></ul>

	発表することができる。		理解している。 ・生涯を見通した経済計画の重要性について理解している。
--	-------------	--	--

\*○必要に応じて評価する (指導に生かす評価)  
◎全生徒を評価する (記録に残す評価)

10. 単元の指導と評価の計画 (全9時間)

時	学習内容	評価の観点*				主な評価規準・評価方法
		a	b	c	d	
第1時	<p>〈18歳で大人?〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2022年(令和4年)4月から成年年齢が18歳に引き下げられることにより、何がどのように変化するかを理解する。</li> <li>成年とみなされるとどのような責任が生じるかを理解する。</li> </ul> <p>[テーマ] 大人になるとどのような責任があると思いますか</p>	○			○	<p>[a] 自分が18歳のときに、全員成年とみなされる。そのときを想像し、大人としての自覚を考えようとしている。(ワークシート)</p> <p>[d] 成年とみなされるとどのような責任が生じるかを理解している。(ワークシート)</p>
第2時	<p>〈「契約」とは〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「契約」とは何かを理解し、一方的に取り消しができないことを理解する。</li> <li>成年と未成年とでは契約においてどのような違いがあるのかを理解する。</li> </ul> <p>[テーマ] 契約の怖いところはどんなところだと思いますか</p>	○	○			<p>[a] 成年年齢引き下げに伴う消費者被害防止リーフレットを読んで、成年と未成年の違いを積極的に考えようとしている。(ワークシート)</p> <p>[b] 契約の落とし穴や、契約するときの注意点を考えることができる。(ワークシート)</p>
第3時	<p>〈契約トラブルとその対策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若者に多い契約トラブルを理解し、全ての契約がキャンセルできるわけではないことを理解する。</li> </ul> <p>[テーマ] ネットショッピングをする時の注意点を考えよう</p>	○			◎	<p>[d] 契約がキャンセルできる場合を理解している。(定期考査)</p> <p>[a] 具体例を考え、自立した消費者として自分で意思決定できる力をつけようとしている。(ワークシート)</p>

<p>第4時</p>	<p>〈収入と支出を知る〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給料明細を基に、収入と支出があることを理解する。</li> <li>・給料全てが自由に使えるわけではないことを理解する。</li> </ul> <p>[テーマ] 『おとなドリル』(教育図書株式会社) 17 ページの「人生における大きな出費の例」を参考にして、これからのお金の計画を考えよう</p>			<p>◎</p> <p>○</p> <p>◎</p>	<p>[d] 給料の仕組みを理解し、収入と支出があることを理解している。(定期考査)</p> <p>[c] 1ヶ月の家計をシュミレーションし、自由になるお金をどのように使うか管理することができる。(ワークシート)</p> <p>[c] 人生における大きな出費の例からこれからのお金の計画を立てることができる。(ワークシート)</p>
<p>第5・6時</p>	<p>〈お金がなくても商品が買える〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クレジットカードやさまざまなカードについて理解する。</li> <li>・3人一組で三者間契約をロールプレイし、クレジットカードの仕組みを理解し、正しい使い方を知る。</li> <li>・多重債務に陥らないようにするにはどうすればよいかを考える。</li> </ul> <p>[テーマ] クレジットカードを使用する時の注意点を考えよう</p>			<p>◎</p> <p>○</p>	<p>[d] クレジットカードと他のカードの違いを理解している。(定期考査)</p> <p>[b] カードを使用するときの注意点を考えることができる。(ワークシート)</p> <p>[b] リボルビング払いの計算をし、多重債務に陥らないようにするにはどうすればよいかを考えることができる。(ワークシート)</p>
<p>第7・8時</p>	<p>〈消費者をめぐる問題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者がねらわれやすい悪質商法とその対応策を考える。</li> </ul> <p>[テーマ] 悪質商法の被害にあわないために気を付けることは何ですか</p> <p>〈こんなときどうする?〉</p> <p><b>事例研究(グループ)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者多い様々な消費者トラブルについて、具体的な事例を基にして、問題が生じたときの対応策と、トラブルにならないためにはどうするかを考える。</li> <li>・自分だけでなく周囲にもアドバイスできるような知識や視点を身に付ける。</li> </ul>			<p>○</p> <p>◎</p>	<p>[b] 自分の性格から陥りやすい悪質商法を考え、もし困ったときはどうすればよいかを考えることができる。(ワークシート)</p> <p>[b] 消費者問題が生じたときの対応策と、トラブルにならないためにはどうするかについて、個人やグループで考え、まとめたり、発表したりすることができる。(ワークシート、授業観察)</p>

第9時	<p>〈トラブルに遭った友だちに、 どうアドバイスする？〉</p> <p><b>家庭基礎レポート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例の問題点を分析し、具体的な解決策・対応策や行動(どのように断れたのか)を考える。</li> <li>・18歳になるまでの間に、自立した消費者になるために今の自分ができることを考える。</li> </ul>	◎	◎	<p>[b] 事例として提示した消費者問題の被害の解決策・対応策や未然防止の方策について、考え、まとめることができる。 (ワークシート)</p> <p>[a] 自立した消費者をめざして消費者の権利と責任や消費者問題に関心を持ち、自らの消費生活や消費行動について、振り返って改善し、実践しようとしている。 (ワークシート)</p>
-----	---	---	---	--

## 1 1. 本時の展開

### 第2時

#### (1) 本時の目標

契約とは何かを理解し、契約内容や契約条件をしっかりと理解したうえで慎重に契約ができるようにする。また、成年と未成年では契約の解除に違いがあることを理解する。

#### (2) 本時の評価規準

- ・成年年齢引き下げに伴う消費者被害防止リーフレットを読んで、成年と未成年の違いを積極的に考えようとしている。【関】
- ・契約の落とし穴や、契約するときの注意点を考え、発表することができる。【思・判・表】

#### (3) 本時の準備物

- ・授業プリント、『おとなドリル』（教育図書株式会社）、
- ・成年年齢引き下げに伴う消費者被害防止リーフレット  
「2022年4月から18歳で契約ができるようになります」  
(大阪府消費生活センター作成、  
<http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/395/00333918/seinennnenrei.pdf>)
- ・まなボード、ペン、プロジェクター等

#### (4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
5分 導 入	<p>○前回の授業の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の授業内容に関する質問をし、クレジットカードや携帯電話の契約は、18歳で保護者の同意なしにできるようになることを振り返る。</li> </ul> <p>○本時のめあて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「契約」とは何かを理解する。</li> <li>・契約するときの注意点を理解する。</li> <li>・成年と未成年では解約の違いがあることを理解する。</li> </ul>	<p>○前回のプリントを見てもよいので、質問に答えられるようにする。</p> <p>○特に現在の高校1年生は、高校を卒業するとすぐに成年とみなされるので、その時を想像して考えることを強調する。</p>	

<p>20分 展開 1</p>	<p>○契約について理解し、生活の多くの場面で関わることを知る。</p> <p>・『おとなドリル』のP. 6を考える。</p> <p>Q1 次のうち、「契約」はどれ？</p> <p>Q2 「契約」が設立するタイミングは？</p> <p>○契約についてまとめる。</p> <p>・契約の成立は当事者の合意による。</p> <p>・口頭のやり取りでも成立する。</p> <p>・契約が成立すると債権（権利）と債務（義務）が発生する。</p>	<p>○机間指導しながら、自分なりの考えが書けているかを確認する。</p> <p>○契約は普段の生活の中でさまざまな場面で行われていることを理解させる。</p> <p>○契約は対等であることを理解させる。</p>	<p>○契約について具体的に考えようとしている。【関】</p> <p>(ワークシート・観察)</p>
<p>20分 展開 2</p>	<p>○成年年齢引き下げに伴う消費者被害防止リーフレットを読みながらワークシートに記入する。</p> <p>【ここまで個人ワーク】</p> <p>○グループになり、契約に関する落とし穴を考え、まなボードに記入していく。【グループワーク】</p> <p>○グループで出た意見を発表させ、契約時に陥りやすい問題点を整理する。【板書】</p> <p>○契約をするときの注意点を考え発表する。【グループワーク】</p> <p>○他の班の意見をプリントに記入する。</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <p>・個人ではわからないが、グループになって意見を出し合うことによって、気付くことができる。</p>	<p>○机間指導しながら、自分なりの考えが書けているかを確認する。</p> <p>○グループでまとめられているかを確認して回り、できていないグループがあれば、進め方をアドバイスする。</p> <p>○各班の発表後、教科書に記載されている、「契約するときのチェックポイント」を参考にする。</p>	<p>○成年年齢引き下げに伴う消費者被害防止リーフレットを読んで、成年と未成年の違いを積極的に考えようとしている。【関】(観察)</p> <p>○契約の落とし穴や、契約するときの注意点を考え、発表することができる。【思・判・表①】</p> <p>(ワークシート)</p>
<p>5分 まとめ</p>	<p>○学習を振り返る</p> <p>○今日学習したことを踏まえて、今日のテーマについて自分の意見を記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>[テーマ] 契約の怖いところはどこだと思いませんか</p> </div> <p>(学習の“まとめ”と“ふりかえり”に記入する)</p>	<p>○今日の授業で学んだことを踏まえて、「今日のテーマ」について文章で表現できているか、机間指導を行う。</p>	<p>○「今日のテーマ」について自分で考えたことを適切に表現している。【思・判・表②】</p> <p>(ワークシート)</p>

### 「観点別評価の判断基準」の設定

判断基準 評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 指導の手立て
【思・判・表②】	契約の怖い点について自分で考え表現するとともに、安易に契約しない方法について具体的に考えている。	契約の怖い点について考え、安易に契約しない方法について考えている。	机間指導を行い、契約とはどのようなものがあったのかを再認識させ、身近な事柄から考えさせる。



## 第7・8時

### (1) 本時の目標

若者が狙われやすい悪質商法や消費者トラブルを理解し、被害を予防する知識や態度を獲得する。もし、トラブルにあった場合、適切に対処することができるようになる。

### (2) 本時の評価規準

- ・自分の性格から陥りやすい悪質商法や消費者トラブルを考え、もし困ったときはどうすればよいかを考えることができる。【思・判・表】
- ・消費者問題が生じたときの対応策と、トラブルにならないためにはどうするかを、グループで考え、発表することができる。【思・判・表】

### (3) 本時の準備物

授業プリント、ワークシート、『おとなドリル』（教育図書株式会社）、付箋、まなボード、ペン、プロジェクター等

### (4) 本時（第7時）の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
5分 導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前回の授業の復習</li> <li>・「クレジットカードは使い方が重要である」ことを振り返る。</li> <li>○本時のめあて</li> <li>・若者が狙われやすい悪質商法を理解する。</li> <li>・もし、悪質商法等の被害にあった場合の対応策を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現在の高校1年生は、高校を卒業するとすぐに成年とみなされるため、悪質商法のターゲットにされやすいことを強調する。</li> </ul>	
15分 展開 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○若者が狙われやすい悪質商法を確認する。（教科書P.182）</li> <li>・『おとなドリル』のP.18～19の診断テストを行い、自分の性格から気を付けないといけない商法を確認する。</li> <li>○なぜ18歳が狙われるのかを考える。</li> <li>・成年年齢が18歳に引き下げられたことを思い出し、悪質業者が18歳を狙おうとする理由を考える。</li> <li>○もし悪質商法のトラブルに巻き込まれたときはどうすればよいか考える。</li> <li>・『おとなドリル』のP.22～23の問題を考え、相談窓口を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中学校で悪質商法については学習してきている。教科書で内容を再認識する。</li> <li>○自分の性格から特に気を付けなければいけないことを確認する。</li> <li>○18歳になると「未成年者取消権」が使えなくなる。悪質な業者はそこを狙ってくることを理解させる。</li> <li>○消費生活センターに相談することや消費者ホットライン（188）があることを理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の性格から陥りやすい悪質商法や消費者トラブルを理解し、もし困ったときどのようにすればよいか考えることができる。【思・判・表①】</li> <li>（ワークシート・観察）</li> </ul>

25分 展開 2	<p>○1～9の消費者トラブルやクレジットカードの事例を示し、さまざま問題が生じた時の解決策や対応策を考える。</p> <p>①グループ分けと事例の決定 ②個人で考えワークシートに記入する。【ここまで個人作業】</p> <p>○グループになり、個人で考えたことを付箋に書き、ワークシートに張りながらグループで討議する。</p> <p>【グループワーク】</p> <p>○グループで出た意見をまなボードにまとめる。【まなボード】</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の意見を出し合うことによって、自分では思いつかなかったことに気付くことができる。</li> </ul>	<p>○「おとなドリル」や教科書を参考にして①事例の問題点、②解決策や対応策、③こうなる前に何をしないといけなかったかを考えさせる。</p> <p>○グループで考えをまとめられているかを確認して回り、できていないグループがあれば、進め方をアドバイスする。</p>	<p>◎事例の問題点、解決策や対応策、こうなる前に何をしないといけなかったかを自分で考え、表現することができる。</p> <p>【思・判・表②】（ワークシート）</p>
5分 まとめ	<p>○学習を振り返る</p> <p>○今日学習したことを踏まえて、今日のテーマについて自分の意見を記入する。</p> <div data-bbox="268 1189 683 1339" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[テーマ] 悪質商法の被害に合わな いために気を付けることはどのよう なことですか。</p> </div> <p>(学習の“まとめ”と“ふりかえり”に記入する)</p> <p>○次回の予告 次回は今日まとめたことを発表する。</p>	<p>○今日の授業で学んだことを踏まえて提示した「今日のテーマ」について、文章で表現できているか、机間指導を行う。</p>	<p>◎「今日のテーマ」について自分で考えたことを適切に表現している。【思・判・表②】</p> <p>(ワークシート)</p>

第8時で発表をする

「観点別評価の判断基準」の設定

判断基準 評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 指導の手立て
【思・判・表②】	事例の適切なアドバイスについて工夫したこと、身に付けておくべき知識や情報を整理し、その成果や課題をまとめるとともに、課題を解決する方法を具体的に考えている。	事例の適切なアドバイスについて工夫したことやその成果と課題をまとめている。	机間指導を行い、今までに学習してきた内容で関連のある事柄をアドバイスする。